



美しい芝生の向こうには、富田さんが手塩にかけた庭が広がります

手塩にかけた庭園

田端さんの家庭菜園に感心しつつ西方面に歩いていると、これまた手入れが行き届いた庭に遭遇。路地からちよつと眺めただけで、息をのむほどの景観が広がります。

「良かったら、見ていかなね」と声を掛けてくれたのは富田結城さん（88）です。庭石が施された存在感ある庭には、マツやマキの木が植えられ、盆栽がバランス良く配置されています。庭木と盆栽の数は208本。手入れは元より、どうやら水やりもひと仕事のようにです。

富田さんは広安農協組合長や上益城農協組合長の会長を務めた人で、かつて視察で訪れた石川県金



「釣りをするのも楽しみ」という富田さん

沢の兼六園の素晴らしさに感動し、庭造りに夢中になっていったと話します。しかし、5年前の熊本地震で自宅が全壊し、自慢の庭も被災。当時はボーリングを掘った水で池がつくられていましたが、現在、水は上がってこなくなつたそうです。

「くよくよしても始まんけん、少しずつ少しずつ、手ばかり加えていきました」と富田さんは振り返ります。

富田さんの一日は、庭木や盆栽の水やりから始まります。それから盆栽の手入れ、庭木の剪定などをぼちぼちと進めて、お昼ご飯を取ってから向かうのは、パチンコ店。

「こるが楽しみですね。いっちゃん勝たんばってんねえ。車が混む時間に運転すると家族が心配するけん、勝つても負けても午後4時までには帰ります」と、まだまだ元氣いっぱいの88歳。ちなみに、その日の午後からのスケジュールを尋ねると、「ふふ」と笑顔をほころばせました。

園庭で伸び伸びと

さて、これまで来た道に戻って、「町立第一保育所」を訪ねてみました。園舎が近づいてくると、元氣な子どもたちの声が聞こえてきます。園庭で思いっきり遊んでいる園児たちの中には、お散歩カートに乗っている愛らしいゼロ歳児たちもいました。

「この保育所は民家の中にあり、周囲のご家庭からのご理解やご配



第一保育所の年長組のみんな。元氣いっぱい笑顔いっぱい



第一保育所の元氣な7レンジャー



お散歩カートに乗ったゼロ歳児のおりこうさんたち

慮をいただいております」と話すのは早田順子園長（60）です。同園には87人の園児たちが通っています。

熊本地震で園舎の被災は免れましたが、周辺の家屋には大きな被害が出ました。「一日も早く再開所し、親御さんたちが安心して預けて働けるようにと願いました」と早田園長。復興が進み、辺りの景色も新しく変化を遂げてきました。変わらぬ園児たちのかわいらしい声が、地域の穏やかな幸せを伝えていきます。